



工学部広報

『第37回福島県建築文化賞復興賞』を受賞しました

建築学科の浦部智義教授を代表とする復興知イノベ活動拠点「葛尾村復興交流館あぜりあ・ロハス蔵」が『第37回福島県建築文化賞復興賞』を受賞しました。「あぜりあ」は罹村した住民はもとより村内外の交流を促すために2018年6月に建てられた復興交流館です。大学との連携により周辺環境の特性や古民家の解体材の利用など様々な地域資源が生きかされ、村の風土と歴史を継承する場となっていることが、高く評価されました。



地域住民と協働で古川池清掃活動を行いました

5月28日(土)、工学部の教員・学生と古川池愛護会等の地域住民による古川池の清掃活動「春の陣」が行われました。「古川池の持続可能な防災親水公園化プロジェクト(通称:ロハスの池プロジェクト)」でも古川池愛護会との連携を図り、古川池の治水対策や環境整備実行に向けて活動を行っています。清掃活動には学生16名、教員4名を含む総勢100名以上が参加。本年度から始まった課外講座「ロハスの池プロジェクト体験」を受講している学生2名も参加し、地域の方たちと一緒に汗を流しました。



『JIA全国学生卒業設計コンクール2022』9年連続出展を果たしました

『JIA東北学生卒業設計コンクール2022』(公益社団法人日本建築家協会東北支部主催)の審査会が3月23日(水)に行われ、建築学科4年(当時)の山口和紀さん(建築計画研究室/指導教員:浦部智義教授)の作品「峠の集落一小さな建築の大きな役割」が優秀賞を受賞しました。この結果、「JIA全国学生卒業設計コンクール2022」の東北支部選考作品として選出され、工学部から9年連続の全国大会出展となりました。



郡山市役所1階ホールに「アクアポニックス」が設置されました

6月7日(火)、土木工学科の中野和典教授(環境生態工学研究室)が開発したアクアポニックスを郡山市役所に寄贈しました。このアクアポニックスは、健康で持続可能な生活を支えるロハス工学の考えに基づき、魚の養殖(Aquaculture)と植物の水耕栽培(Hydroponics)を組み合わせ、魚が汚した水を水耕栽培で有効活用するシステムです。郡山市役所内の良好な室内環境の維持に貢献することが期待されています。



「福島県男女共生センター」様から女子学生に生理用品の支援

4月5日(火)から4月7日(木)の健康診断実施期間中において、新型コロナウイルス感染症の影響などにより経済的に困窮し生活不安を抱えている学生を支援するため、昨年に引き続き福島県男女共生センター様から生理用品の無償提供があり、約300名の女子学生に無料配布しました。福島県男女共生センター様には、心より御礼申し上げます。

工学部後援会からの支援をいただき、「ロハス定食」を提供しています

工学部後援会からの支援をいただき、ハットNE1階の学生食堂で栄養バランスのとれた「ロハス定食」を平日200食限定で販売しています。定価550円のところ、学生は250円で購入することができ、学生からも「安くてしっかり栄養がとれる」「安くても美味しくボリュームがある」と大変好評です。ロハス定食の他、課外活動・大学行事への補助、奨学金等多大なご支援をいただいている工学部後援会に、心より御礼申し上げます。



桜の開花に伴うキャンパス一般開放を行いました

桜の開花時期に合わせて、4月9日(土)から13日(水)まで、キャンパスを一般の方々に向けて開放いたしました。期間中は、約4,000名の大変多くの皆様へ、学内の美しい桜をご堪能いただきました。ご来学された皆様には、新型コロナウイルス感染症防止対策にご協力を賜り感謝申し上げます。また、株式会社開成測量設計社のご協力により、キャンパス内の桜の風景動画をホームページにて公開しました。心より御礼申し上げます。



日本建築材料協会優秀学生賞を受賞しました

この度、建築学科の鉄筋コンクリート(RC)構造・材料研究室(指導教員:サンジェイ・パリーク教授)の大越康貴さん(当時学部4年)、河合亮貴さん(当時学部4年)、川崎浩長さん(当時博士前期課程2年)、園井弘樹さん(当時博士前期課程2年)が、一般社団法人日本建築材料協会優秀学生賞を受賞しました。同じ研究室から4人の学生が選ばれることは稀で、快挙と言えます。また、川崎さん(写真)は公益社団法人日本コンクリート工学会東北支部の令和3年度奨励賞も受賞しています。



「JA福島さくら」様から学生にお米の支援

4月11日(月)から13日(水)の3日間、コロナ禍における学生の生活支援として、「JA福島さくら」様から無償提供いただいたお米(1袋10kg入)を延べ1,100名の学生に無料配布しました。搬入から配布までは、体育会、学術文化サークル連合会、北桜祭実行委員会などの学生有志が行いました。配布開始前から多くの学生が列を作り、嬉しそうにお米を持ち帰っていました。JA福島さくら様には、心から御礼申し上げます。



日本森林学会学生ポスター賞を受賞しました

『第133回日本森林学会大会』(一般社団法人日本森林学会主催)が3月27日(日)から29日(火)にオンラインで開催され、情報工学専攻博士前期課程2年の齋藤優さん(生産システム工学研究室/指導教員:溝口広准教授)が学生ポスター賞(経営部門)を受賞しました。齋藤さんが発表した「UAV搭載レーザーキャナによる森林計測点群中の樹幹抽出手法」は、福島県林業研究センターと株式会社大和田測量設計との共同プロジェクトで進めている、令和3年度農林水産分野の先端技術展開事業のうち研究開発委託事業(3Dスキャナ等搭載ドローンと深層学習を活用した構造物困難区域等の森林資源利用システムの開発)の研究成果によるものです。



工学部の学生3名が日本大学優秀賞(善行部門)を受賞しました

昨年4月6日(火)に郡山市田村町御代田地で発生した建物火災の初期消火活動に貢献したとして、土木工学科3年(当時)の中鉢巧夫さん、佐藤辰則さん、城内海樹さんの3名が郡山消防署長から感謝状を授与されました。その功績が認められ、日本大学の名誉を著しく高めたとして、日本大学学長より、「日本大学優秀賞(善行部門)」が贈られました。5月12日(木)に工学部で執り行われた授与式では、根本修亮工学部長から一人一人に賞状が授与されました。



入学おめでとう!

新入生特集

FRESHMAN'S
FEATURE

CONTENTS

学部長メッセージ	P1
新任教員紹介	P2
● 新入生特集	
● 新入生行事紹介	P3-4
● 充実した学びの環境	P5-6
— スタディ・スキルを養う「自主創造の基礎」	P5
— 資格取得やスキルアップのための「課外講座」	P5
— 学生ものづくり団体「LohasProLAB」	P6

● ロハス工学特集	
● ロハス工学への期待 ～時代の転換点を楽しみ生きるために～	P7-8
高大連携推進室の開設	P9
オープンキャンパス実行委員会の紹介	P10
工学部だより	P11



学部長メッセージ



自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力の獲得に繋げていくことを期待しています

令和4年度は、工学部および大学院工学研究科への1,255名の新入生を迎えて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に行いながら、開講式を挙げてまいりましたことは、本学にとりましてこの上ない喜びであります。令和3年度までは、感染症拡大防止対策の一環といたしまして、入構人数制限を設け、対面授業と遠隔授業を併用しながら授業を実施して参りましたが、令和4年度からは、学修効果の向上を図るためにも対面授業を原則として実施しております。在学生のみならず、対面授業や課外活動を通してお互いの絆を深めながら、日本大学の教育理念である「自主創造」を構成する自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力の獲得に繋げていくことを期待しています。

日本大学工学部において、「ロハス工学」をキーワードとした教育・研究を進めていることは、社会的な認知も確実に進んでいることと思います。令和2年度に開設した「ロハス工学センター」では、ロハスの家群跡地再生プロジェクトを立ち上げ、教職員のみでなく、学生も参画したワークショップにおける議論を通して、

「ロハス工学」を体現できる新たな拠点作りを進めております。令和3年度は、「ロハス工学センター」内に学生が主体となり活動を行う「LohasProLAB」を設立しました。「LohasProLAB」で開発した技術が、メディカルクリエーションふくしま2021「第2回創生アイデアコンテスト」において、最優秀賞を受賞したことは「ロハス工学」を基盤として「自主創造」を学生自身の力で成し遂げた成果であり、工学部として誇りに思うところであります。

一方で、例年行っているオープンキャンパスにつきましても、令和3年度からは、学生が実行委員会を立ち上げ、教職員と協働しながら、実施しております。このような在学生のみならずの活動は、将来、必ずや社会貢献に資する人材の輩出へと繋がるものと確信しておりますので、工学部教職員一丸となり、引き続き、在学生のみならずの教育・研究活動のサポートに誠心誠意努めて参ります。

日本大学工学部長 **根本 修克**

新任教員紹介

令和4年4月より着任されました教員の方々をご紹介します。

土木工学科 **阿部 慶太** 准教授
地盤災害軽減研究室

社会インフラを支えるエンジニアを育てたい

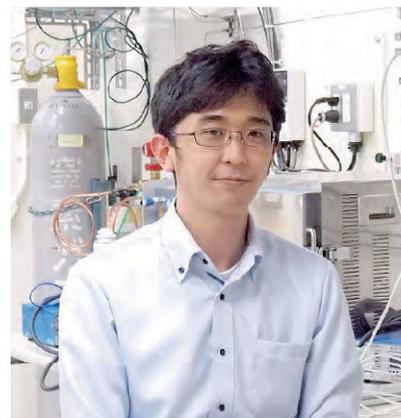
工学部に赴任する以前は、公益財団法人鉄道総合技術研究所で鉄道の維持管理に関わる地盤関連の業務に携わっていました。これまで培った知識や経験を若い世代に伝えていくことの重要性を感じたことから、教員の道を選択しました。災害軽減に役立つ地盤に関する実験と解析法の開発をベースに、新たに液状化現象の基礎解析にも取り組みながら、研究と教育を通じて社会に貢献することを目指します。学生のみならず、ともに自由な発想でやりたいことにチャレンジしていきましょう。



電気電子工学科 **江口 卓弥** 助教
パワーエレクトロニクス研究室

地域特有のバイオマス資源を使った研究に挑む

持続可能な社会そして脱炭素社会に貢献することを目指し、焼酎粕などの様々な未利用バイオマス資源から活性炭を製作して、電極材料に応用する研究に取り組んでいます。今、着目しているのは“桃”。ポテンシャルの高い地域特有のバイオマス資源を使って、高性能な蓄電デバイス開発に挑戦します。また、電気主任技術者の有資格者の経験を活かし、資格取得を支援していきたいと考えています。学生のみならずの電気基礎学力の向上と技術者としての自信につながるようサポートします。



総合教育 **金子 千香** 専任講師
英語研究室

人生をやさしく生きるための言葉を大切に

"A paradise within thee"(あなたの中に楽園を)。この言葉は、私が研究対象としている17世紀のイギリスの叙事詩人ジョン・ミルトンが著書『楽園の喪失』に記したものです。どこにいても心の内に安寧をもつことが大事だと伝えています。私は言葉の力を信じています。時には自分を励まし、時には人を助ける力になる言葉は、人生をやさしく生きていくために大切なものです。みなさんが世界中の人と通じ合える英語を使って、自分の意思を自分の言葉で伝えられるようになってほしいと願っています。



充実した学びの環境

スタディ・スキルを養う

『自主創造の基礎』

日本大学では、「自主創造の基礎」を初年次教育科目として、全学的に実施しています。授業を通じて、本学の学生として共通して身につけるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルを涵養することを目的としています。授業はアクティブ・ラーニングの形態による、双方向、対話型、学生参加型で行われ、他者の意見を尊重しながら多角的かつ批判的に自身の考えを伝えることができるコミュニケーション能力の向上にもつながっています。



資格取得やスキルアップのための

『課外講座』

正課の授業以外で、幅広い教養を身につけることを目的に、資格試験対策をはじめとする様々な課外講座を開講しています。学年・学科を問わない講座では、他分野の仲間との交流もあり、視野や見聞を広げています。

TOEFL・TOEIC入門

本講座では、CALL教室を用いてTOEFL-ITPやTOEICの問題演習を行い、海外留学・研修に必要な英語能力を養成します。受講登録した学生のうち3分の1が1年生という、新入生にも人気の講座です。

受講生の声

- 就職に役立つと考えて受講しました。問題を解いた後に先生のわかりやすい解説があるので、一人で勉強するより吸収できます。
- 大学生のうちに留学経験をしてみたいと思っています。英語は公用語なので、勉強して損はないです。
- 今よりもっと英語のレベルを上げるために受講しました。自分のペースで参加できるからいいです。
- 受講したのは留学の準備のため。他の方の解答を聞くのも勉強になります。
- 「やらかしちゃ」と思っても、なかなか勉強できない人におすすめです。仲間と一緒に頑張りましょう。
- 大学院進学に欠かせないTOEIC。英語は積み重ねが大事だから、早いうちから始めるのがよいと思います。

全学年・全学科対象の講座

- ✓ 水環境工学の入門講座と水環境改善の実践活動
～ロハスの池プロジェクトを体験してみよう～
- ✓ 金属材料の基礎
- ✓ 現代物理学への入門講座
～量子論と相対論の世界にふれてみよう～
- ✓ 数理論理学セミナー
- ✓ 異文化理解のための日本語リテラシー



【左】中国からの留学生 侯鳴さん(電気電子工学科1年)
 【右】友達の木田恵理さん(電気電子工学科1年)

ディスカッションを通して日本の文化や生活様式を理解することができます。

他の国の人と異文化交流ができて楽しいです。

工学部では、各学科の専門教育だけでなく、学生の皆さんが幅広い知識や教養、人間力を身につけられるように、1年次から様々な学びの環境を整えています。

学生自主的な学びも支援しています!

学生ものづくり団体『LohasProLAB』



コメンター

【前列右から】会長:園田駿希さん(建築学専攻2年)、副会長:加藤駿永さん(生命応用化学科2年)、主務:齋藤彩葉さん(土木工学科4年)、【後列右から】広報:成田颯さん(土木工学科3年)、会計:佐藤光さん(電気電子工学科1年)、広報:遠藤隆世さん(機械工学科4年)、施設管理:西宮大晴さん(電気電子工学科1年)、施設管理:高橋晋平さん(情報工学科2年)

2021年9月、ロハス工学センタープロジェクトの一つ『ロハスの家群跡地再生プロジェクト』の学生メンバー8名が主体となり、学科横断的にものづくりや研究活動を進めていくことを目的とした、学生ものづくり団体『LohasProLAB』が発足しました。これまで、『ロハスの家群跡地再生プロジェクト』のメンバーとして、『ロハス工学』の新たな研究拠点づくりの実現に向けて実施されてきたワークショップに参加。多彩な工学分野の研究者やプロジェクトを支援する職員、プロジェクトデザインに関わる外部スタッフとともに、学生ならではの視点を活かし、活発に意見やアイデアを出してきました。その中のアイデアの一つ『視覚障がい者のためのエコーロケーション装置』をメディカルクリエイションふくしま2021『第2回創生アイデアコンテスト』に応募。新しい技術を用いた解決策であり、実現性が高い点などが評価され、見事、最優秀賞を受賞しました。

次世代工学技術研究センターの2階に『LohasProLAB』の部屋ができ、3Dプリンターやレーザープリンターも導入されて本格的なものづくりも始まっています。6月29日(水)には、学生たちで決めた運営規約に則り、コメンター会議を開催。学生のみで活動を開始する記念の初日となり、それぞれの役割も決まりました。これからの活躍に期待も高まっています。



最優秀賞を受賞しました!



Fukushima Tech Createに採択!

園田駿希さんが「国産のバイオマスプラスチック製3Dプリンタ用フィラメントの製造販売およびエコマテリアルインテリアの造形販売」で、令和4年度 Fukushima Tech Create(イノベーション創出プラットフォーム事業)ビジネスアイデア事業化プログラムに採択されました。

園田駿希さん(建築学専攻2年)

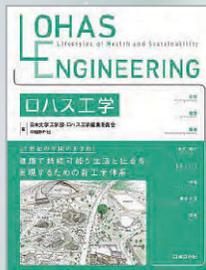




ロハス工学への期待

～時代の転換点を楽しく生きるために～

6月23日(木)、大学院工学研究科の『ロハス工学特論』において、元NHK解説委員でジャーナリストの後藤千恵氏をお招きし、『ロハス工学への期待～時代の転換点を楽しく生きるために～』と題して講義を行いました。後藤氏はNHK解説委員として様々な社会課題を取材、被災地の復興を支援する番組のナビゲーターも務めました。土木工学科の岩城一郎教授に住民主体の橋のメンテナンスについて取材したことがきっかけで、ロハス工学に興味を持ったそうです。地球環境の危機や持続可能な社会の実現が叫ばれる中で、消費者として都会に身を置く自分の生き方に矛盾を感じて、昨年NHKを早期退職し、山口県宇部市の里山へ移住したという後藤氏。現在は熊本県天草市との二地域居住で、“農”ある暮らしを実践しながら、未来を楽しく切り拓く持続可能な生き方を提案しています。講義では、社会が抱える問題点を浮き彫りにし、その解決のために何をすべきかご教授いただくとともに、『ロハス工学』への期待についてお話いただきました。



『近代の“成功”が生み出した2つの危機』とは!?

後藤氏はまず、学生たちに問いました。「22世紀のイメージは、“明るい”か“暗い”か?」。挙手の数は「暗い」が若干上回りました。次の問い、「自分で社会を変えられると思うか?」には、圧倒的多数が「変えられない」に手を挙げました。後藤氏は「これからの1時間で、自分で社会を変えられると思う人が一人でも増えることを期待してお話ししたいと思います」と伝えました。

そして話題は、現代社会に迫りくる、近代の“成功”が生み出した『地球環境の危機』と『資本主義の危機』という2つの危機へ。今、気候変動に限らず、様々なリスクにより地球の限界が近づいています。日本は1960年代の高度成長期以降、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代を突き進み、生活が豊かになった一方で、多くのCO₂を排出し、地球環境に負荷をかけてきました。「2050年までにCO₂の排出を実質ゼロにしなければ、臨界点を越えて“灼熱の地球”へと暴走を始めると言われています。これをどう自分事として捉えられるかが問われています」と後藤氏は強く訴えました。



もう一つ、『資本主義の危機』。経済が成長し、富裕層が富を増やし続ける一方で、不安定な雇用が広がり、賃金は上がらず、格差が拡大。経済的に苦しい状況に追い込まれた人は社会的に孤立しがちで、自分自身の頑張りでさえ貧困から抜け出せずにいます。コロナ禍以前から日本社会に広がっていた病理を何とかしなければならず、そのためには『地球環境の危機』と『資本主義の危機』を同時に解決していく多様な取り組みが必要だと後藤氏は指摘しました。

『ロハス工学に期待することとは!?

後藤氏は、一人当たりのGDP(国内総生産)は増えても生活満足度は変わらず、人々はお金で買えない豊かさを求めていると分析。そして、「大量から少量へ」、「競争から共創へ」、「縦型からネットワーク型へ」、「自然支配から自然共生へ」と優越する価値が変わってきている。人が集中することによって多くの課題が引き起こされている“都市”から、土と触れ合う農ある暮らしができる“田舎”の価値が今後高まっていくだろうと示唆しました。さらに、本講義のテーマである『ロハス工学への期待』について、講義は展開していききました。

ロハス工学に期待することとして後藤氏がフォーカスしたのは、『人の力を引き出す』、『自然の力を引き出す』ということ。その着眼点は、まさに“目から鱗”でした。これまではより便利で効率的な暮らしを実現するための技術やサービスの開発が追求されてきました。でもこれからはエネルギーも食料もできるだけ地域で賄い、自給に近づけていく、逆にそれを楽しむ時代になっていくのではないかと。また食料増産のために農業や化学肥料で大地の力を奪い森林を破壊するのではなく、自然と共生し、土や木など自然の力を最大限引き出す取り組みが必要になるのではと提言しました。ここで後藤氏は、『ロハス工学』の教科書の序論に書かれている、加藤康司先生のメッセージを読み上げました。加藤先生は元日本大学工学部機械工学科の教授であり、『ロハスの家研究プロジェクト』の創始者です。そのメッセージには、資本主義経済とともに終わりを告げようとしている工業文明脱出のために、「農工合体の新文明(=農工文明)」の

時代が来ると書かれています。こういう時代の転換点に、危機を乗り越えるためのバイブルが『ロハス工学』の教科書だと明言する後藤氏。「私がぼんやりと思い描いていたことを、加藤先生は10年も前に鮮やかに明文化されていたのです。『ロハス工学』の教科書を手にしている学生の皆さんには、この幸運なチャンスをぜひ活かしてほしい」と訴えました。

『ロハスの産業革命が地球を救う』

都会から田舎に移り住み、“農”ある暮らしを実践している後藤氏は、“都市”と“田舎”の違いや田舎のメリットを示しながら、地球を救う行動を促すには「食の現状を知る」ことが重要な鍵を握ると言及。輸入食料の大量・長距離輸送によるCO₂排出の現状のほか、『DRAWDOWNドローダウンー地球温暖化を逆転させる100の方法』(ポール・ホークン著)の内容を紹介し、地球温暖化を逆転させるにはエネルギーだけでなく、食分野での取り組みが有効だと示しました。その具体的な策として、できるだけ耕さず、農薬や化学肥料を使わずに多くの炭素を吸収させて土壌を健康に保つ「環境再生型農業」、荒れた農地を再生する「管理放牧」、フードロスの削減、その土地で採れたものを食べるのが体にも良いとされる「身土不二」について自らの実践も交えて説明しました。

さらに、昨年6月から始まった、ロハス工学センター&楠クリーン村(山口県宇部市)の共同研究プロジェクトについても紹介していただき

ました。楠クリーン村に工学部の教授や学生が向かい、住民主導で行う高品質コンクリート舗装の道づくりや水を循環させるロハスのトイレの設置など、様々な取り組みを進めています。ロハス工学によって「人の力を引き出す」、「自然の力を引き出す」ことが、まさに実践されているわけです。後藤氏はこうした取り組みを熊本県天草市でも展開して、今後“農”と“食”は研究としても面白いテーマになる可能性があると、学生にインターンの参加を呼びかけました。

「これから目指していくべきは成長ではなく発展だと思います。同一モデルの量的拡大から新規モデルへの移行」が求められる挑戦の時代に、様々な分野の中から自分が夢になれる専門を見出し、その分野でトップランナーになることで、世界中から感謝され、自分自身もやりがいを感じられるのではないのでしょうか。これからは、私(人類)のウェルビーイング(Well-being:幸福・健康)から、私たち(地球全体)のウェルビーイングへ、そういう視点が大事になると思います」と後藤氏はエールを送りました。

最後に、「21世紀の産業革命が『ロハスの産業革命』と呼ばれるものになれば、新文明は人類および他の生物の未来を万年単位で明るくする『始まり』になる」という加藤先生のメッセージを紹介し、福島で大きな可能性を秘めている学生たちに、「3.5%の人が動き出せば、世界を変える草の根革命を起こせると言われています。皆さんもその3.5%の人になることを願っています」と伝え、講義を締めくくりました。



高校生の未来を応援する

高大連携推進室

令和4年4月、高校生の皆さんの進路選びや総合的な探究活動を支援するための『高大連携推進室』を開設しました。ロハス工学の特色と魅力を伝える様々な情報提供をはじめとして、高校生の皆さんが将来を考えた大学選び、学部・学科選び、職業選択、ロハス工学による総合的な探求(学習)活動をサポートします。学び発見の場として生徒の皆さんの探究心を育むとともに、工学的、論理的思考を兼ね備えた人材を育成していただけるよう、高校との教育連携を通じた交流を図り、地域社会の進歩・発展に貢献する活動を進めます。

大学見学や進学相談会、早期合格者説明会、個別相談等のイベントでは、『チューデント・サービス』として学生スタッフが高校生や受験生の皆さんをサポートします。

詳細はコチラ!



高大連携推進室のコンテンツ

高校生・受験生のためのコンテンツ

- 文理選択・大学・学部・学科選びのアドバイス
- 大学生から学びや生活に関する情報提供
- 将来や進学に向けてのサポート



高等学校教員のためのコンテンツ

- ロハス工学による探究活動支援
- 大学見学の相談および案内
- 出張講義の相談および案内
- ワンストップの懇談・連携体制



イベントの開催

- オープンキャンパス
- キャンパス自由見学またはガイド付きキャンパスツアー
- 早期合格者説明会
- 進学相談会



個別相談(オンライン型、対面型)

- 個別相談メニュー案内
(教職員との対談、志望学科学生スタッフとの対談等)



学生アンバサダー制度

大学と学生が連携し、学生自らが教育、研究、課外活動等を通じて得た経験などをもとに、学生の視点で学部の魅力を広く情報発信するとともに、学生アンバサダーの活動を通じて、コミュニケーション能力や社会人としての基礎力を養成することを目的とする学生アンバサダー制度を設置。第1号の学生アンバサダーに電気電子工学科2年の内山瑛穂さんが任命されました。



高大連携推進室の支援実績



福島県立いわき総合高等学校の皆さん【大学見学】



郡山市立宮城中学校の皆さん【大学見学】



二本松市立岩代中学校の皆さん【オンライン大学見学】

オープンキャンパス実行委員会がイベントをサポート!!

学生主体の運営組織『オープンキャンパス実行委員会』は、オープンキャンパスの企画から準備、運営まで携わり、親身になって高校生の皆さんの大学選びをサポートします。オープンキャンパス実行委員会のオリジナルサイトも開設。大学の授業や学生生活など、高校生の知りたい情報を発信したり、大学生活に関する悩みや相談にも本音で答えます。



6月19日(日)に行われた『オープンキャンパス2022』では、参加した高校生や保護者の方々の案内や相談に対応するなど大活躍しました。

受付 & 資料配付



郡山駅シャトルバスの案内



案内 & 誘導



サークル紹介の運営



工学部生と話そう!



飲み物コーナー



シャトルバスお見送り



オープンキャンパス実行委員会
オリジナルサイトはこちらから!



気になることや質問は
気軽にDMまで!



Twitter



Instagram

SNSでも
情報発信中!

